

# 心に残る文化財子ども塾 活動の概要と様子 ～ 島根県立盲学校 ～

## 1. 概要

5月31日(金)、松江市にある島根県立盲学校で『心に残る文化財子ども塾』を行いました。はじめに、学校周辺の地形を立体模型にして古墳などの遺跡を表示した立体遺跡地図を触りながら学校や遺跡の位置を確認しました。学校の周辺にはたくさんの遺跡があることや学校の南に広がる宍道湖の湖岸にも遺跡が存在していることが分かり驚いていました。

学校周辺の遺跡について学んだあと、各時代の土器などの本物の遺物に触ってみました。縄文土器と弥生土器は表面の滑らかさや厚さの違いを比べることができました。勾玉は曲がった形を確かめることができました。

その後、弥生時代の青銅器「銅剣」と「銅鐸」の模倣品にも触れてみました。銅鐸の表面には様々な文様があります。三角形や四角形、動物の文様などです。これらも指先で丁寧になぞることによってどこにどのような文様がつけられているか、文様も単独のもの、連続しているものがあることがわかりました。銅剣に触ることで先端の鋭さや重さを理解することができました。

## 2. 様子

### 1) 校区の遺跡マップを見ながら地域の遺跡を学ぶ



2)縄文土器に  
触れる

### 3)青銅器の模鑄品を観察する



## 3. 子ども塾を終えて

### 1) 児童の皆さんから…

- ・本物の土器を近くで見たり触れたことが心に残った
- ・土器や銅鐸にあんなに細かい文様あることがわかった
- ・学校に近くにたくさんの古墳があったことに驚いた
- ・銅鐸を鳴らした時にお寺のかねのような音がして面白かった
- ・縄文土器は粘土を焼いたような感触を感じた

### 2) 担任の先生から…

- ・学校周辺の古墳などの分布が分かりやすいように手作りの触地図を準備してもらい生徒の興味や関心を高めたり、新しい気づきになった。
- ・実際の土器に触ることで時代ごとの質感の違いを感じ取ることができた
- ・視覚障がいのある生徒へわかりやすい説明や声掛けなど様々な配慮をいただき貴重な学習機会となった
- 準備地域の遺跡を学べて地域や歴史への関心が高まりました
- ・実施時間をもう少し長くすれば生徒がしっかり触れる時間を確保できたよかったですと思っています

### 3) 埋文センターから

- ・視覚障がいのある生徒さんとの授業ということでわかりやすく説明をすることと、しっかり観察し触る時間を設けることで理解が深まるように努めた。限られた時間であったが生徒さんの満足度は高かったようで安心した。学校周辺にも遺跡や古墳が多くあることもわかり、学校周辺のイメージが少しでも変わったのではないかと思います。土器や青銅器の模鑄品に触る際、重さや手触り以外に細かい文様に気づくなどしっかりと観察ができました。これからも地域の歴史に興味関心を持っていただけると嬉しいです。